

[報告] 関東大震災と皇族邸の被害-宮内公文書館資料から-

三重県四日市県税事務所* 木下 恭子

Damages of Royal Family Houses by The Great Kanto Earthquake

— From the Documents of The Imperial Household Archives —

Kinoshita Kyoko

Mie Prefecture Yokkaichi Tax Office, 4-21-5 Shinsho, Yokkaichi-shi, Mie-ken, 510-8511 Japan

There are lots of important photographs about the damages of The Great Kanto Earthquake in the Imperial Household Archives. Among them are the photos of the damaged Royal Family Houses escaped a fire. From the photos, we recognize the actual damages of the Royal Family Houses and how big the earthquake was.

§ 1. はじめに

1923年9月1日の関東大震災では、地震後発生した火災による被害が甚大であった。特に東京、横浜などの家屋密集地では、地震で倒壊した後に焼失した建物についての震害の正確な記録が得られていない。そうした中、宮内公文書館に、関東地方に点在し、震災に遭遇しながら火災を逃れた皇族邸等の被害写真が多数残されていることがわかった。本報告では、皇族邸の被害例を紹介することで、関東大震災の震害の実態を知るための一助としたい。



写真-1 『震災写真帳』4冊

photo-1 “Earthquake photo book” 4 volumes

§ 2. 『震災写真帳』の概要

建物の被害写真は、宮内庁書陵部が管轄する宮内公文書館所蔵の『震災写真帳』（識別番号 46680～46883）と題する冊子 4 冊にまとめられている。冊子は、約 28cm*40cm の短辺とし右開きで、布張り・紐綴じで装丁されている。写真はハガキサイズで、1 ページに 2 枚の写真が貼付されている(写真-1)。

当時の宮内省内匠寮が管理する建物等のうち、48 か所の写真である。宮城(111 枚)、皇族邸(60 枚)、離

宮(38 枚)、御用邸・御所(93 枚)、その他(119 枚)の震災被害写真 421 枚が収められており、そのうち、皇族邸被害の概要は表 1 のとおりである。

撮影経緯や撮影者は明記されていないが、1921 年の宮内省の省報に、内匠寮の事務分掌として写真に関する事項と明記されていることや、震災後、各宮邸へ検分のために職員が派遣されたことから、写真は内匠寮職員により撮影されたと考えられる。

なお、本報告で使用する写真はすべて宮内公文書館所蔵のものである。

§ 3. 被害の実例とその後の対応

『震災写真帳』の皇族関連の施設のうち、小田原や鎌倉の御用邸で全壊した建物の写真が多く、震害の様子がはっきりと確認できる。なお、小田原、鎌倉、鶴沼では 3 名の皇族が薨去された。そのほかの地域では、塀や官舎が全壊しているものはあるが、邸宅そのものが全壊しているものはなく、外壁のひび割れや家屋の歪みなどが確認できるものが多い。

明治期に建設された皇族邸は、日本館と洋館で構成されていたようである[小沢朝江(2008)]。本報告で紹介する伏見宮邸、北白川宮邸、有栖川宮邸についても同様である。明治時代の始まりとともに、あらゆる面で欧米諸国に倣い、近代化へと歩み始める時代の流れに違わず、皇族邸においても西洋建築が取り入れられた。

なお、建物の耐震性について本格的に議論されるのは、1891 年の濃尾地震以降と言われている[小野木重勝(1983)]。お雇い外国人として 1877 年に来日したイギリス人建築家ジョサイア・コンドルは 1879 年以降に着手した皇居造営において入念な地質調査を行

* 〒510-8511 三重県四日市市新正 4-21-5
電子メール: kinok00@pref.mie.jp

い、コンドルよりも前に来日したフランス人建築家レスカスの補強理論を発展させた鉄組補強法を提唱した[小野木重勝(1979)]が、本報告で紹介する邸宅にどんな耐震化が施されていたかは、明らかにできていない。

3.1 伏見宮邸

伏見宮邸は、旧彦根藩井伊家の中屋敷で、1878年12月に賜邸地となった。1881年に日本館が完成し、1891年に片山東熊設計による洋館が完成した。

写真は、屋外5枚、屋内3枚あり、被写体は塀と土蔵、洋館である。正面脇築地塀は、瓦が崩れ、煉瓦と思われる壁面も崩れ落ちている(写真-2)。また、外構煉瓦塀は全壊しており、煉瓦造りに大きな被害があったことが確認できる。土蔵の写真では、壁面が剥がれ落ち、倒壊を防ぐためか、応急処置のあとが確認できる。洋館の外観は、2階部分数ヶ所に亀裂が見られ(写真-3)、その亀裂が内部から確認できる写真もある。

なお、震災後、1928～1929年にかけて、邸宅は再建された。第二次大戦後に大谷財閥に買収され、その後、ホテルニューオータニとなる。その日本庭園は、当時の名残を伝えている。



写真-2 正面脇築地塀
photo-2 The front side of Tsukiji fence



写真-3 洋館正面
Photo-3 The front of western style building

3.2 北白川宮邸

北白川宮邸は、1882年に日本館が、1884年にジョサイア・コンドル設計による煉瓦造2階建の洋館が完成した。当邸宅が撮影された写真19枚のうち、屋外9枚、屋内10枚である。2階建の日本館の屋根は中央部

分がくぼんでいるようにみえる(写真-4)。また、木造平屋の付属官舎は、倒壊した様子が確認できる(写真-5)。一方、洋館の外観は、大きな崩れや歪みなどは見られないが、2階と屋根の境目や、八角形平面部分の境目にはひび割れが確認できる(写真-6)。内部で撮影された写真では、天井や床が抜け落ち、壁が剥がれるなど激しい破損が見られる。図-1は、1923年の返地に伴う文書(『元北白川宮邸・白金御料地沿革誌』)に添付された配置図をもとに作成した。この図により、正門や洋館はその形から、おおよその場所が特定できる。

なお、北白川宮邸は、1923年11月に返地され御料地となり、一部は公園として東京市へ貸付された。他の一部は李王邸地として下賜された。現在は東京ガーデンテラス紀尾井町となり、その敷地内には、旧北白川宮邸洋館の煉瓦基礎が一部残されている。

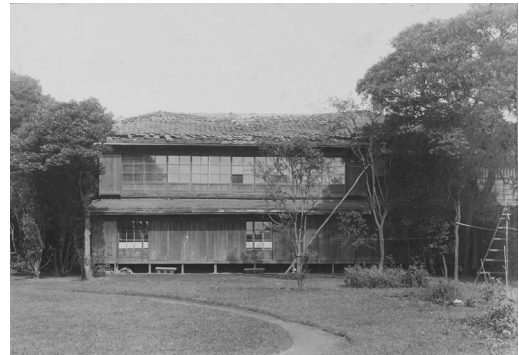


写真-4 日本館御居間
Photo-4 The living room of Japanese building



写真-5 附属官舎の倒壊
Photo-5 The collapse of affiliation official residence



写真-6 洋館正面其二
Photo-6 The front of western style building 2

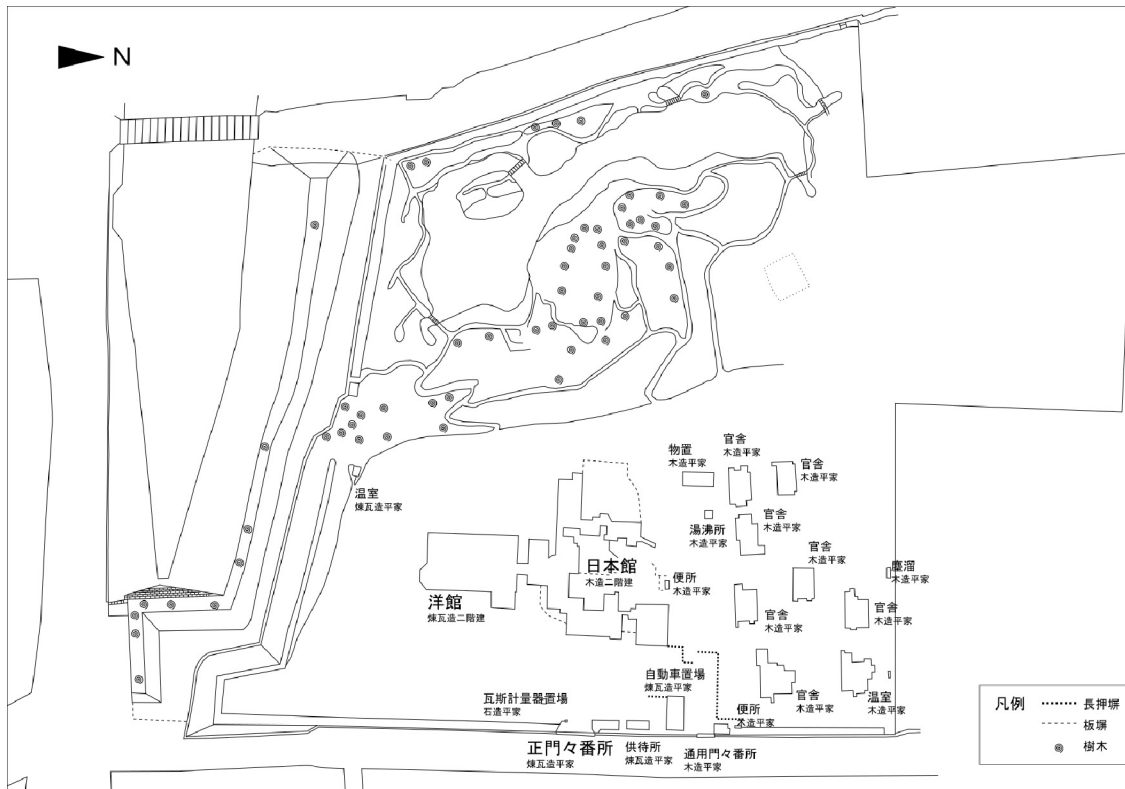


図-1 北白川宮邸配置図

(宮内公文書館蔵『元北白川宮邸・白金御料地沿革誌(識別番号 12905)』よりトレース・加筆)

Fig-1 Layout drawing of Kitashirakawa-miya House

3.3 有栖川宮邸

有栖川宮家は、霞ヶ関の邸宅が離宮として買い上げられたことを機に、1901年に三年町に邸宅を整備した。震災当時、麻布にも邸宅があるが、生母のために整備したものである[杉栄三郎・他(1940)]ことから、写真は、三年町の邸宅ではないかと推測される。

屋外で撮影された写真は6枚で、洋館1枚、日本館4枚、煉瓦塀1枚である。附属邸の写真では、瓦礫や廃材などがきれいに片づけられており(写真-7)、左右に木材や瓦が積まれていることから、原形をとどめないほど被害を受けた建物があったことが想像できる。また、洋館そのものの構造に目立った被害は見られないが、2階の壁面数ヶ所が剥がれ落ち、骨組みが顕わになっている部分もある(写真-8)。

なお、写真-7では、中央付近に半纏をまとった人の姿も確認でき、写真-8では2階へと梯子がかけられている。また、写真-9では、崩落したとみられる壁面の一部が板塀で補修されているように見える。これらのことから、有栖川宮邸については、震災後、応急的に片付けがなされた頃に撮影されたものと考えられる。

1913年に有栖川宮家が断絶した後は、継承した高松宮家が使用し、1927年には政府へ移譲され、官舎となる。



写真-7 附属邸其一

Photo-7 The affiliation residence 1



写真-8 洋館正面

Photo-8 The front of western style building



写真-9 外構煉瓦塀

Photo-9 The brick fence of outer structure

§4. おわりに

今回紹介した3邸については、写真により個々の建物被害の当時の様子を、視覚的に把握することができたが、それらの被害の特徴を明らかにできていない。

しかしながら、『震災写真帳』には、皇族邸や御用邸などの皇室関連施設の被害写真が多く収められており、場所が特定できることや、建物の図面が現存するものもあることから、所在地の震度や地質、建物の構造などを整理し分析することで、震害の様相や特徴を詳細に知ることができるのではないかと考える。ついでには、引き続き情報収集と分析を進めたい。

謝辞

本報告にあたり、宮内庁書陵部図書課 外立直美氏に、史料閲覧に際しご配慮をいただいた。宮内庁書陵部編集課 白石烈氏には、写真帳の来歴等について貴重な示唆をいただいた。ここに記し、感謝の意を表す。また、本報告に至るすべてにおいて、ご指導・ご鞭撻くださった恩師と先輩に深く感謝の意を表す。

対象地震:1923年 関東地震

文献

- 小沢朝江,2008,明治の皇室建築:国家が求めた(和風)像,吉川弘文館,193-210pp.
 小野木重勝,1983,明治洋風宮廷建築,相模書房,7-8pp
 小野木重勝,1979,日本の建築[明治大正昭和]全 10巻:2様式の礎,三省堂,137-139pp.
 杉栄三郎等(編),1940,有栖川宮総記,開明堂,114-115pp.

No.	名称	識別番号	写真番号	枚数	キャプション	被害程度				場所
						全	半	破	不	
						潰	損	明		
1	有栖川宮邸	46880	2~7	6	外構煉瓦塀/洋館正面/中庭煉瓦造り倉庫/正門内左方土蔵/附属邸 其壹/其貳	2		4		麹町区三年町か
2	伏見宮邸	46880	8~15	8	正門脇築地塀/正門脇築地塀/洋館正面/裏階段室/洋館殿下御居間内部/ペランダ/外構煉瓦塀/南土蔵	2	1	4	1	麹町区紀尾井町
3	閑院宮邸	46880	16~20	5	洋館庭園面/内庭塀煉瓦塀/御居間椽先崖崩壊 其壹/其貳/御土蔵		3	1	1	麹町区赤坂見附上
5	東伏見宮邸	46880	24~30	7	外構石塀/外構石垣及倒壊四阿舎/御二階家外部 其壹/御二階家内部 其貳/御二階家内部 其壹/御二階家外部 其貳/御内庭四阿舎	1	2	4		芝区葵町
6	北白川宮邸	46880	31~49	19	正門/洋館正面 其壹/其貳/洋館背面/洋館妻/御車寄/階下應接間/洋館階下/廣間/洋館階段ノ間/階上廣間/洋館御居間/階上ペランダ/階上ペランダ/御召替所/洋館御客間/元御玉突所/御台所/日本館御居間/附属官舎ノ倒壊		1	17	1	麹町区紀尾井町
7	芝北白川宮邸	46880	50~50	1	御座所裏鉄筋ブロック石垣崩壊				1	芝区高輪南町
8	竹田宮邸	46880	51~52	2	通用門脇土手崩壊/土蔵被害	1	1			芝区高輪南町
9	山階宮邸	46880	53~59	7	正門/外構石塀倒壊/洋館内部/御居間/一番御倉庫前面/中坪御倉庫壁墜落/元御寝室及中坪御倉庫			5	2	麹町区富士見町
10	華頂宮邸	46880	60~62	3	御車寄/洋館腰石廻り破損/外構煉瓦塀倒壊			3		芝区三田台町
11	王世子邸	46880	63~64	2	外構石塀/第二倉庫	1	1			麻布区烏居坂町

表1 皇族邸被害の概要(『震災写真帳』より作成)

Fig.1 The overview of Royal Family Houses Damages